



私の雄弁会時代

前都城市長 ながみね 長峯 まこと 誠



大隈講堂を見上げながら正門を通り抜けると、新入生を勧誘する様々なサークルの出店の中に、粗末な机を並べただけの雄弁会のそれはあった。

着席するなり「なぜ雄弁会に来た

の？」と聞かれ「勉強させていたきたいと思つて…」言い終わらないうちに「勉強は一人でやるものだよ。帰らない！」と吐き捨てるような上級生の言葉。私はすっかり面食つてしまった。

曰く、「雄弁会は社会変革を実践する場であつて、目標のない者は入会する必要はない」とのこと。そこで、田舎から出てきたばかりの幼稚な頭をひねつて、あれやこれや自分なりの改革案をぶつけてみるも、経験豊富な上級生にコテンパンに論破され追い返される。来る日も来る日もその繰り返しであつた。

雄弁会の門を叩いたのは百五十人ほどだが、五月の新入生歓迎合宿のころには二十人ほどになつていた。この合宿で「処女弁論」を行うが、これまた上級生にやじり倒されて、泣き出す者や失神する者が続出。結局、十人ほどがなんとか片意地だけで生き残る、という具合になる。

弁論大会やデベート大会はあるものの、活動の中心は研究と企画である。問題意識を共有するテーマについて研究発表をし、その成果としてシンポジウムなどの企画を実施する。私が携つたものとしては、表現の自由・沖縄問題・日韓問題などがあつた。その他にも選挙制度・防衛問題・教育問題・天皇制など時事テーマにつき様々な活動が展

開されていた。

そして、研究でも企画でも、とにかく徹底的に議論をする。この議論こそが雄弁会そのものであつた。制度論にとどまらず思想・哲学に至るまで、「負ければ退会」というくらいの緊張感で、時間無制限のデスマッチを二十四時間三六五日繰り返していた。時に怒号が飛び、殴り合いにもなり、失うものがない若いエネルギーを極限までぶつけ合つた。

授業も疎かになり留年者も続出。彼



「都の西北 建学百年」より引用 - 新入生歓迎風景

女はおろか合コンもなし。バブル全盛期に全共闘時代のような学生生活を送つていた。雄弁会が「頭の体育会」と言われる所以である。

他大学の弁論部との交流も盛んで、各大学主催の弁論大会はさながら道場破りのような殺気が漲つていた。また、テレビ出演の依頼もあり、徹夜討論番組の学生スペシャルなどでは、著名なコメンテーターを相手に大立ち回りを演じたりもした。

ただし、実社会においては「沈黙は金、雄弁は銀」。

雄弁会は二年後期と三年前期に、同期生から一人ずつ幹事長を輩出して第一線を退く。私は二年後期に幹事長になつたので、同期生より一足先に引退した。その後は「リハビリ」と称する期間に入る。

論破したからと言って相手は自分の言うことを聞いてくれず、むしろ反発されるだけである。そのような現実社会のルールに頭と体を馴染ませる必要があるためだ。

当時振り回していた理想や論理は、今思えばまことに心許なく思い出すのも気が重い。

しかし、現在の私自身の根っ子の政治思想や人生観のあら方は、この経験で培われたものである。偏狭なナショナリズムや全体主義への違和感

—— 集まり散じて 人は変われど
 仰ぐは同じき 理想の光 ——

常盤の杜を心の故郷とし、経世済民
 の志を果たすべく、いざ行かん。

(H5政経)



大隈講堂前：雄弁会の仲間たち

は、私のセンスとして身についた。自由で公正な社会を実現するために、権力は抑制的であるべきとの考え方は自ら政治に携わる今、ますます確信を増している。

また、本気でぶつかり合った仲間が各界各層で活躍し始めているのも心強い限りだ。特に政界・官界・マスコミなど永田町界隈を棲家とする友人・先輩・後輩は、今後の私の政治活動に大いなる力を与えてくれるだろう。

県支部役員会報告

四月十三日、県支部の朽木支部長・村社事務局長、日南稲門会の河野会長と四人で、熊本県支部総会に参加しました。来賓として懇親会に出席された熊本県知事の蒲島郁夫氏は、農協職員からハーバード大学で博士号取得、東大法学部教授を経て現職に就いた異色の経歴の持ち主ですが、「早稲田が輩出した有能な幹部職員に支えられて知事を勤めさせていただいております」と述べられて、部長職三名を含む早大出身の県職員を一人ひとり紹介されました。また、全てのテーブルを回って歓談・写真撮影に応じ、会合の最初から最後までお付き合いいただきました。その旺盛なサービス精神と我が母校に対する敬意の示され方に感服するとともに、私の父と同郷の山鹿市出身ということもあって、非常に親しみを感じました。今後も機会があれば他県の総会に積極的に参加したいと思わせてくれる有意義な体験となった次第です。

さて、去る三月十六日に「杉の子」にて開催された宮崎県支部役員会（県支部・地域支部・職域支部・レディース稲門会から二十四名出席）について以下、報告いたします。



県支部幹事長
森川 護

1. 県支部総会について

開催日・会場：7月28日（日） 於「宮崎観光ホテル」

2. 事業年度計画について

- (1) 東京六大学ゴルフ：4月14日（日）／東京六大学テニス：4月21日（日）
- (2) 全国支部長会・商議員会：7月6日（土）
- (3) 全国幹事長・事務局長会、秋季代議員会：9月27日（金）
- (4) ホームカミングデー・稲門祭：10月20日（日）

3. 九州・沖縄ブロック組織強化について

- (1) 九州山口沖縄県支部商議員・代議員懇談会：沖縄県（11月15日～16日）
- (2) 九州ブロック各県総会開催予定の把握と積極参加
 4/13（土）熊本 7/7（日）福岡 7/13（土）鹿児島・山口 7/14（日）佐賀 7/21（日）大分

4. 校友名簿の整備促進及び役員の連絡方法について

会報6月号の発送準備作業として、5月末に校友名簿の追加・更新を行っていく。

5. 校友会費の納入促進について

平成23年度は220名が納入。平成24年度は現在150名が納入済み。
 地域支部・職域支部単位で連絡を取り、納入促進を図る。

6. 推薦校友・校友会稲魂賞候補者の推挙について

稲魂賞は在学生が対象なので、明確な情報提供が必要。
 推薦校友は、候補者を推挙してもらえば事務局で認定要件を調べて回答する。

報告事項

- (1) 全国幹事長・事務局長会、春季代議員会報告：県支部幹事長 森川 護
- (2) 会報発刊報告：会報編集長

支部長挨拶

宮崎県支部長 朽木 充嗣



支部長に後指名をいただき三期六年目を迎えました。また会報「杜へ」も第六号も発刊となりました。これもひとえに校友の支援の賜物と感謝いたします。編集員及び役員の皆様が影の力となり制作に努力いただいております。支部会費の納入と連絡先の住所名簿の整理も徐々に進行しております。校友の「絆」を皆様と今後とも共有し、さらに「絆」を強固なものするために会報の利用促進をはかってまいりたいと思っております。宮崎県支部総会を七月二十八日に宮崎地区稲門会の主管で開催をいたします。鎌田総長をお迎えして「都の西北」を校友の皆様とともに歌いましょう。

今後はさらに校友会行事の情報を会員の皆様に広くお知らせをして、他県の支部校友会に気楽に参加できる環境整備に努めます。まず沖縄において十一月十五～十六日、九州ブロック会議が開催予定です。校友会の中だけの話、オフレコの話、普段は聞けない事など内容充実です。是非ご参加ください。

支部長余録

早稲田学報六月号に新・早稲田界限特集がありました。私も昭和五四年卒で今年ホームカミングの招待年度となりました。一九七九年卒は通称「五四ら会」と呼んでいます。健忘症の始まりか三十五年の昔を振り返り、特に印象のお店、場所など名前を思い出せません。旧一・三号館にはラウンジがなく、教育学部のロビーでたむろした記憶があります。クラスの集合雀荘は澤田家だったような気がします。試験前には雀荘でノートを借りて、当時はやりの電子コピー機で「丸写し」しました。学生ストでほとんど後期試験はレポートに切り替えて、そのおかげで前期試験が定例化してきました。当時の先輩は「四年間レポートだけで三年には就職が決まり後は体育の単位を取るだけ。」と夢のような話でした。その後の現実は厳しかった。

「会社紹介」

編集委員 (有)プラネットノア 萩原 宏昭



世はまさにインターネットの時代。いまや情報はパソコン、スマホ、タブレットから得る世の中です。宮崎でも多くの会社が自社ホームページを持つようになりました。しかし、作っただけで活かしてある会社は少ないようです。

そんな経営者のために、ネットの波に埋もれた自社ホームページの情報を、関心のあるターゲットへ表示する管理サービスも始めました。

現在ネットでは、ターゲットが検索サイトでキーワードを入力した時、趣味や興味に応じたサイトを見た時、ニュースをチェックしている時、ケータイで近くの店を検索した時、最適なメッセージを適切な地域に、効果に合ったコストで届けることができます。自社のホームページをなんとかしたい校友の方、力になります。

※グーグル社のアドワーズ認定資格上級を取得しました。

(S 54商)



土地の有効活用をお考えのあなたに
高い入居率を誇る

しあわせ賃貸ネットワーク
Y&M ユーザーマンション をご提案いたします。

地域社会に貢献する企画提案型企业【ISO9001・ISO14001】認証取得

神崎建設工業(株)

代表取締役社長 神崎 義世 (昭和39年 政経卒)

- 本 社 〒880-0832 宮崎市稗原町 63 番地 1 TEL(0985)25-1233(代) FAX(0985)25-1240
URL <http://www.kanzaki.net> mail info@kanzaki.net
- 延岡営業所 TEL(0982)33-0858 FAX(0982)33-0877
- 日南営業所 TEL(0987)55-0019 FAX(0987)55-0020 ■関連会社 (株)カンエイ (不動産・賃貸管理)



札幌から宮崎の校友へ

日本経済新聞社

加藤 三雄



札幌にようやく春がきた。暖かな日差しの中、草木が輝きはじめた。わが家の前の中島公園では桜やコブシが次々に開花。朝夕、愛犬と歩きながら雪の中でじっと耐える姿を見続けてきただけに、「元氣な枝振りや新芽を見ると愛おしく、「よく頑張ったなあ」と声をかける。

当地の桜の開花宣言は平年より十日遅れの十三日。それも本当に春らしくなったのは十七日のこと。この冬、札幌は寒さ、積雪とも記録破りで、春の訪れも遅かった。連休中に最高気温十度以下が続いたのは四十二年ぶり、五月初めに雪が降ったのも二十一年ぶりなのだとか。

春がおとずれたら皆に便りを書こう

と思っていたら五月中旬まで引き伸ばされてしまった。

昨夏は異例の猛暑（といっても本土と比べれば楽なもの）冬は記録的な低温降雪と、北海道の自然が新参者のわれわれを大歓迎してくれたと感謝。おかげで立派な「札幌人」になれた。

冬には雪の世界でしか味わえない喜びが沢山あるが、丸四か月以上も雪のなかでくらすと、春が恋しくなる。四月はまだ冬同然で寒いのに意地で春の薄着を楽し始める人たちがいる。事故を警戒して低速運転だった車も雪が融けるとスピードを出し始める。気持ちわかる。

われわれも「おんもに出たいミヨちゃん」ではないが、穏やかな天候の中をあちこちを散策する。水芭蕉が群生する市内外の湿原を訪ね歩いたり、美しいカタクリの花を見に公園の連チャンも楽しんだ。今週、初めて道南を訪ね、松前や函館・五稜郭で素晴らしい桜の森をみた。

札幌ではこのあと夏から秋に向けてアウトドアで様々な祭りやイベントがまさに爆発する。おおいに楽しみたい。

(S49一文)

東京六大学ゴルフ大会



弁護士 川添 正浩
(弁護士法人みやざき)

平成十六年に弁護士登録をしてからもうすぐ丸九年になります。登録直後から稲門の先輩弁護士にお誘いいただき、東京六大学ゴルフ大会に参加させていただくようになりました。初めのころはただの人数合わせ的な意味合いが強かったと思いますが、最近では団体戦のスコアにカウントされることも増えてきたので少しは貢献できているかなと思っています。ただ、開催場所が宮崎カントリーという難コースでもあり、これまで個人戦で上位入賞するほどの成績が残せていないのはさびしいところです。

半年先の次回大会の日程が発表されると六大学ゴルフの予定を優先的にスケジュールに組み込んでいます。次こそいいスコアを出したいものです。(H11法)

- 開催日 4月14日
- 会場 宮崎カントリークラブ
- 開催時間 集合8時40分、
9時03分スタート
- 参加者総数 72名
- 優勝 立教大学

校友参加者：境田栄徳、四元邦和、藤崎克朗、道休宜之、野崎義弘、福井芳文、富永正一、城寛、松下信之、福井俊郎、鈴木毅、清水敏正、川添正浩、古澤佑規 14名



連載

団塊世代の社会論
私の見てきた街の変遷

大西医院長 大西 雄二



一身でふたつの時代を生きたと言葉があるが、戦争を経験した世代はその通りであろう。生死にはかかわりがないが、バブル景気を見てきた世代も同じ言い方ができるのではないか。

私自身は宮崎に帰ってからは勤務医、開業医として直接の影響は少なかったが、警察医としての検死ではバブルの破綻の影響で自殺したのではないかと人々を何人もみてきた。そして繁華街に住んでいるため商いの栄枯盛衰を間近に見てきた。

私は宮崎小学校卒で橋通を通った。目抜き通りには商店が並び、近くに戦後すぐにできた青空市場や文化マーケットがあった。今も営業を続けているのは指折り数えられる程度である。

労働安全衛生法で勤労者の健康保持のために従業員五十人以上の企業におくことが義務づけられている「産業医」という制度がある。これは基準をクリアし

て与えられる資格である。産業医になって幾ばくかのお手当を頂いている。

この産業医をやらしてもらった企業の消長が実に象徴的である。現在は二社(金融業と食品業)で務めているが、以前はクレジット会社、飲食業、流通業、ホテル業の産業医をやっていた。自院が繁華街にあるせいであろう。クレジット会社は大手に吸収されてなくなり、中心街にあった自社ビルは取り壊され駐車場になっている。飲食業は複数の店を順次閉じてやがてなくなった。流通業は会社としてはあるが、ほとんどの従業員がパートとなり産業医をおく必要がなくなった。ホテルは大淀川沿いであったが経営不振で廃業になり跡地はマンションになるようである。

私はその都度、産業医をリストラされてきた。私のリストラなどどうでも



初夏の幸島の風景

いいが、健康診断で訪れた方々、中高年が多かったがそれからの職や生活はどうなったのだろうと暗澹とした気持ちになる。

近所の飲食のお店はずっと厳しいのかもしれない。三年続けるのも大変なようである。閉店の張り紙を見る度に、夢と期待を持って始めたであろうにやるせない気持ちになる。

地価はバブルの狂乱の時代を経て私が開業医になった昭和六十年頃の水準に戻ったのではないか。商売をやるうとする人がいないので当時より低いかもしれない。

沫のような繁栄があるのではなく、落ち着いて安定した社会のなかで企業や個人、家族の平安を願いたいものだ。結局変わらないのは県庁の前の大通りを枝で覆い隠すような楠と宮崎小学校の梅檀の巨木たち。それに大淀川の水の流れ、南国の蒼穹。私が自然に癒しを求めたのもこの悠久さにあるのだろう。(S47一文)

お詫び



- 前号新春第5号のP8の丸山文民校友の「懐日」の中で、そうそう颯爽のルビは誤りで「颯々」という漢字の誤植でした。
- 前号同第5号のP10の「ホームカミングデーで大学訪問」の「深作欣二」とあるのは、「小栗康平」の誤りでした。訂正します。



冬虫夏草酒
金霧島

すっきりと、ふくよかな味わい。

古来より健康に役立つと珍重されてきた「冬虫夏草」と、美味しさを極めた本格焼酎「黒霧島」の幸せな出会いから誕生した「金霧島」。よりマイルドな口当たりと「冬虫夏草」由来の深いコクが、お楽しみいただけます。美味しく飲んで、すこやかに。



冬虫夏草

霧島酒造株式会社

霧島通販蔵

www.kirishima-product.com

通話料 0800-123-1574

受付時間10:00~17:00 (土・日・祝日を除く)

◎お酒は20歳になってから。◎飲酒運転は法律で禁じられています。

宮崎で第二の人生

陶芸家

松形 まつかた恭知 きみとも

そろって陶芸家の松形恭知さんと三枝子さん

編集

— はじめまして、お忙しい中、取材よろしくお願ひします。この国富町三名で陶芸を始めたきっかけをお聞かせください。

松形氏

— わたしは三十年程埼玉の中学校の教員をしていました。父親も高年齢になったことだしそろそろ郷里に帰って親の面倒を見ながら、若い頃からの夢だった陶芸をやるのかと思いました。

五十五歳で早期退職し、陶芸ができる場所をあちこち捜していました。そんな

あるとき、ギャラリーボードという画廊に陶芸展を見に行きました。ギャラリーボードのご主人がこの持ち主で、ちょうど売りに出されていました。

編集

— ああそうなんですか。わたしな



ど素人ですから、てっきり陶芸に適した粘土が出るのここを選ばれたのかと思ひました。

松形氏

— 残念ながら宮崎には陶芸に適した土は、ごく一部の地区を除いて採れない。ほとんど

原材料は岐阜の多治見や滋賀の信楽あたりから仕入れられています。わたしの場合、取り寄せた数種類の原材料を混合させて「三名窯」の素材としています。

編集

— 陶芸は土が問題なんですね。

松形氏

— そうなんです。陶芸の土は、花崗岩

が長い年月風雨で削られ、それが堆積した土が最適なのです。宮崎以外の九州各県ではたくさん採れますね。

編集

— そもそも陶芸をやるうとしたのはいつごろでしょうか。

松形氏

— 父の勤務の関係で、わたしは都立新宿高校へ通っていました。中学・高校とも剣道をやっていて、そのころ高校の近くの伊勢丹でよく前衛陶芸の作品を展示していました。だんだん興味をもつようになりました。

その後、早稲田の政経に入りました。同時に早稲田美術研究会に入会し仲間とわいわい過ごしました。一歳下の家内は、教育学部、美研で知り合いました。

四年で卒業せず、モラトリアムって言うのでしょうか、二年留年し、社会科の教員免許状をとって、先ず口を糊することを考えました。

正直、陶芸で食っていく自信はなく、時間的にゆとりがある教職ならば、陶芸も続けられるかと安易に考えました。幸い、教職の口が埼玉にあり、中学校の教師をやったという訳です。

編集

— 教職と陶芸の両立はできましたか？

松形氏

— 現実には考えていたのとは全く違ってました。教員の仕事は忙しいし、またやり甲斐もあつたので、教職に嵌まってしまいました。わたしは中高で剣道をやっていましたので、剣道部の顧問を任せられたのです。部活の顧問は土曜日曜がないので、陶芸どころではありません。



——五十五歳で早期退職され陶芸一本での生活はいかがでしょうか。
松形氏
——平成十八年三月末に退職し宮崎

ようやく剣道部のない学校へ異動になり、そこではじめて休日ができ陶芸ができる時間ができました。その学校が結構荒れてましてね。休日くらい気分転換をと思い陶芸を再開しました。そして、作品を公募展に出品し始めました。

わたしも四十五歳になっていましてが、平成九年に国展に入選。次の年に益子陶芸展審査員特別賞、この展覧会は、今は無くなっていますが、外国の陶芸家も多数参加する国際展でした。それから明るる年に毎日新聞主催の日本陶芸展に入選です。そのころから、教職を退いて陶芸でやっていこうと思った訳です。

編集

に帰ってきました。と言っても、わたしは宮崎で生まれこの地で育った訳ではありません。

宮崎は父の生まれた土地。わたしは父が転勤族だったので、あちこち行きましたね。わたしにとって宮崎は新天地なのです。

その新天地で新しい仕事を始めたわけですから、まだ緊張の毎日ですよ。

編集

——毎日が陶芸三昧という訳ですね。
松形氏

——はい。土曜日曜もありません。わたしの場合は、三十年もプランクがありまして、休んではいられないという思いが強い。とりあえず、秋の銀座三越での個展に向けて、毎日精を出しています。

編集

——松形さんの作品づくりのコンセプトは、どういうものでしょうか？



松形氏
——きっかけはオブジェなどの前衛陶芸でしたが、今は、日常使う陶器が作りたいたいと思っています。ただ、鑑賞だけを目的とした陶器ではなく生活の中で使用する陶器です。自己主張を抑制し、器としての本来の機能を發揮できる陶器。それでいて使う人にささやかな喜びを感じていただけるようなものをめざして作っています。

編集

——最後に松形さんの作品の特徴はどのへんにありますか？
松形氏

——わたしのは、鉄分の多い赤土に白化粧土と餡色あめいろの釉薬ゆうやくを掛けるスリップウェアという技法ですが、言葉ではなかなか説明がむづかしいので、一度見に来てください。

編集

——今日は忙しい中、ありがとうございます



——お待ちしています。周囲は一ハクターの山です。これから草や竹の茂りとの戦いです。でも、うれしいことにこれからしばらく、ほらその繁みあたりにはそれはいっぱいひめ蛸の乱舞が楽しめますよ。

松形氏

わたしは飲めませんが、家内は多少はいけますので、遠慮なく。ただ作業の手を休んではいけない工程がありますので、その時は対応出来ませんが…。

「水害から変わった人生」

青島リゾート株式会社
総支配人室長 満田 雅也



「これが、ふるさと宮崎か？」平成十八年の夏。東京で役人として楽しく働いていた私が、たまたま宮崎に帰省した際に感じた感想である。

高校卒業まで宮崎で育ち、大学から東京で生活する様になっても、長期の休みのたびに宮崎には必ず帰省していた。一人っ子という事もあり、いつかは宮崎へ戻らないといかんだらうなあ、と漠然とした将来像はあったものの、将来の具体的なビジョンなど何もなく、日々の仕事に追われ、どちらかというとと無目的で自堕落な生活を送っていたと思う。

なくては困るが、日々の生活では特段気にする事もない、そんな「空気」の様な、僕の「宮崎」像が一変する事になったのが、この年の夏である。

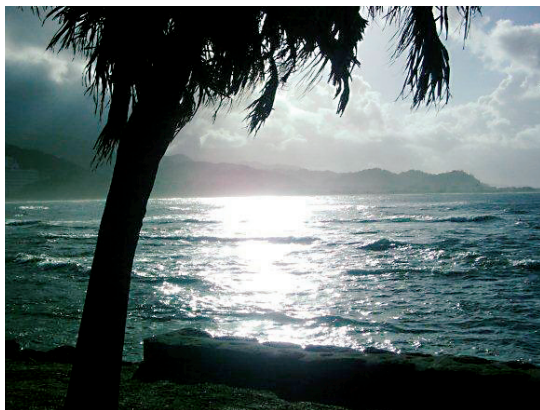
泥水で満たされた、自分のよく知っている街。舟で救助隊に救助される人々。長期間出ない水道。ホームシッ

クに罹るには、これだけで十分だった。思い切った仕事をやめ、宮崎に残ろうかとすら考えた。

ただ、自分には何のスキルもない。自分には宮崎の為にできる事は何も無い。それが現実であった。

それでも、宮崎の為に「何か」したい。その強烈な想いを抱く事となった。第一歩が、あの夏の台風である。

単純な私は、宮崎と言えば「観光」だと考えていた。小さい頃親に連れられて行ってもらった納涼バスの景品で、置き時計をもらった事や、青島の海でいとことヤドカリを捕って遊んだ思い出。そんな楽しかった宮崎の思い出が、自分の中での原体験であったからかもしれない。



宮崎のビーチ

じゃあ、観光で宮崎を盛り上げればいいじゃないか。それが、今の仕事に繋がる第一歩であった。

東京に戻ると同時に、いろいろな本を買って観光業界の事を徹底的に調べた。学生時代にホテルでアルバイトしていた事もあり、ホテル業に転職するという結論に至るまで、それ程時間はかからなかったと思う。

そこで「星野リゾート」という面白い会社がある事を知る。フラットで、誰に対しても自由に自分の意見を主張できるといふリベラルな社風。バブル崩壊で破綻した国内リゾートを、个性的でリーダーシップ溢れる社長のもと、独特の手法で次々と立て直しているという。元来私の強い性格であったからだろうか、そんな社風であれば働いていても楽しそうだ。面接を受けて、ダメならまた別の道を考えよう。そういう軽い気持ちで面接を受けた。

そうすると「ウカツチャッタ」のである。東京での安定した職を捨て、田舎の馬の骨も知らない様なリゾートに転職する事に対して親は猛反対した。何度も説得を重ね、ついには半分強引に「星野リゾート」に転職した。

だが、星野リゾートでの日々は、そんな強い我をへし折るには十分であった。自分よりも若くて優秀なスタッフが、大勢いるという事も驚きだったが、



青島と砂浜

何よりもパートやアルバイト（もちろん若い人ばかりではなく、ごくフツーのおじちゃん、おばちゃん達である）のスタッフが、正社員よりも生き生きと働いており、お客様の為にできる事は何かを真剣に議論し、自分の意見を堂々とロジカルに主張する。

学生時代、バイトと言えは適当にこなして日銭を稼ぐ、その程度のものであった自分にとって、これは相当なカルチャーショックであり、自分の小ささを知るとともに、たくさんの「気づき」を得ることができ、大きく成長できた実感できた日々であった。

星野リゾート時代は約七年、様々な職種を経験し、縁あって現在の職場に至る事になった。もちろん入社して一



青島リゾート — パームビーチホテル

筋縄ではいかない事も多く、尊敬する星野佳路社長が社長に就任された時代の苦労をそのまま追体験しているのではないかと思う事もあるが、自分にとってはこれがあの七年前の夏に決めた、夢の実現に向けての過程である。会社ではだいたい浮いているのではないかと思う事もあるが、これも早稲田の「在野精神」そのものではなからうかと、自分を慰めながらも楽しく働いている。

この原稿が世に出る頃には、当社もさらに大きな動きが発表されているはずである。宮崎の片田舎から世界に向け、当社は大きく羽ばたこうとしている。校友の皆様方には、今よりもさらに暖かいご愛顧を賜らんことを強く希望する次第である。(H12年政経)



花見の会



さる三月三十一日、宮崎市天神山公園において、「花見の会」を開催しました。当初、日南市飢肥の竹香園を予定していましたが、参加希望者が少なく、しかも今年の桜は開花が早いこともあって、急きよ会場を変更しました。

天神山の桜はすでに散っていました。それでも舞台では陽気な歌や踊り。そこかしこには、ビニールシートが敷かれ、おじさんおばちゃん、兄ちゃん姉ちゃん、和気藹々と春の一日を過ごしていました。

校友は、宴実行委員会が作成した「人生劇場」の口上を述べ、そのあと皆で歌うという時代遅れのやり方でしたが、結構盛り上がりました。

自己紹介では、大先輩の林英男さんが、学徒出陣や海軍予備学生の思い出を語られ、今でもふんどし一つで寝る習慣を欠かさず、健康の秘訣はこれに尽きると強調されたのが印象的でした。

校友の友人、田上三郎さんが、がん闘病と克服についてひばりのように熱く語り、皆を感動させていました。

途中、衆議院の新人議員、武井俊輔さんが加わり、いっそう華やいだ宴となりました。用意した特製(?) 弁当や刺身もビール、焼酎とともに胃袋へおさまり、ほろ酔い気分で午後三時半に解散しました。

三原校友より金一封をいただきました。心からお礼を申し上げます。来年の春、またふたたびお会いしましょう。

(参加校友：村社昭二 南晃平 藤井陽子 福井俊郎 林英男 武井俊輔 鵜澤胤博 三原志郎 森川護 編集長)

創業65周年。
感謝価格にて「住宅の省エネ塗装」をうけたまわります。



株式会社 **くちき**

国土交通大臣許可 特定建設業 一般社団法人日本塗装工業会会員

本社/宮崎市大字跡江386-4 TEL0985-47-3585 メール受付
福岡支店/福岡市博多区浦田2丁目1-4 TEL092-503-9881 info@kuchiki.co.jp

くちき

検索

校友からの一言

「サンデー毎日」

元都城教育長 玉利 讓



仕事を離れて早三年が過ぎた。「サンデー毎日」の月日も飛ぶ勢いで流れる。教職定年後、民間の仕事や公職等の仕事に就かせていただき、実に充実した日々を過ごさせていただいた。「早寝早起き朝ごはん」生活の中ウオーキングや野菜づくりの真似ごとをしながら寝込むこともなく生かされている。

「ホームカミングデー」の案内もなくなり、早稲田は遠くにけりの感もしないでもない。しかし、同期会の「珊瑚会」が毎年十月二十日、大隈講堂の近くであるので出席して、青春時代の思い出を語り合っている。今年も楽しみにしているとところである。昨年は大隈講堂の前で江夏日出也さんに偶然出会いました。

県内の校友諸氏のますますのご活躍を祈念して近況とします。

(S29教育)

「下手の横好き」

元県立学校長 布施 大典



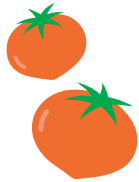
下手の横好きで、長いこと弓道をやっています。

時間に余裕ができたこともあり、半年くらい前から練習時間を増やしました。一人黙々と弓を引き続けたのです。ところが、皮肉なことに中りは悪くなってしまうました。

自分の弓を引いている姿は自分には見えないので、昔から「一人稽古はするな」と言われてきました。しかし「俺だけは大丈夫」という思い上がりが一入稽古に向かわせ、練習量が増えた分だけ弊害が出るのも早かったというわけです。

これまでの人生でも、良かれと思っ てやったことが実は一人よがりということがあったのではないかと、反省させられました。

(S42教育)



「竹林の勢いをエネルギー源へ」

高野祐二(旧姓温水)



ここ二、三年来、山里や山奥でも竹林が大勢力になり、木材主体の山林の破壊が進んでいる。この竹林の勢いを大いに利用したらと思う。

例えば、大型の農業施設を設け、これは冬場を中心とした老人クラブの集会場を兼ねる。農業の高齢者は農林年金のみでは小遣い不足となっているので、軽トラック一台の竹林を持ち込めば、ガンリン代プラス小遣いが入る仕組みにする。

この竹林を利用して温水暖房を設け、集会場の冬場の暖房と農業施設の暖房を兼用して冬野菜を栽培する。

冬場はこの集会場で竹林の加工、例えば竹製品又は暖房用燃料に加工しておき、出来れば短く切り細かく割って一種のペレット化して家庭用に販売する。そうすることで冬場の労を冬野菜の栽培へつなぐことができる。春になれば、タケノコ林と次々と展望が広がると思う。タケノコを収穫し、それを煮るにも竹林を利用するという具合である。

竹林をなくす一番簡単な方法は、秋から冬にかけて竹の根本一メートル位の所で切断し、一年おけば根茎迄くさって容易に除去できる。これは、この道の先輩に教えて頂いた。

私達は知らないことが多すぎる。その道に入ってみたら、案外簡単なことが多いのかも考えるようになった。

追伸

父の父、小生の祖父は早大(前身校)の一期生で当初政治家を志し、宮崎県議会議員となるも政治に不向きと考へ、開田事業に力を注ぎました。

(S40理工)

「新しく出発したが」

行政書士 井上 順隆



早稲田を卒業して四十年になる。

昭和四十年代の激動の時を過ごした早稲田は、地方出身者にとって少々生きづらい面はあったにせよ、それまでの停滞していたすべてを一変させた魅力的で刺激に満ちた場所だった。生涯の友ができ、未熟ではあったがさまざまな体験をした。懐かしく大切な思い出である。

さて、私は現在、前職(地方自治体)

の定年退職後開業した行政書士業務に苦闘している。というのは、まだお客様が少ないからである。

業務力と営業力の向上に努めているが、何かが足りないのであろう。いろいろ模索し、試みる日々である。

業務の柱は、遺言・相続、成年後見、会社・法人設立である。健康の許す限り現役でい続け、少しは世の中のお役に立てることが今の最大の目標である。

(S48法字)

「野菜嫌い」

西都衛生公社 村上 正彦



子供の頃から野菜が大嫌いだった。野菜は鶏のエサ位に思っていた。大人になっても魚肉中心の食生活をしてきたが、慢性的に便秘をしていた。肉食のライオンや虎も便秘をするのだろうか、つまらぬことを考えていた。

二十年前に医者から「内臓が太り過ぎていて、このままの食生活を続けたらあと十年で死ぬ」と脅かされた。総コレステロールの他、何もかも異常に数値が高く脂肪肝にもなっていた。偏食には関係ないと思っているが、胃

と痔と目の手術を何回もくり返し、文字通り「イジメ」にやられた。

頭や首も含めなんと三十回も手術した。宮崎大学付属病院からお歳暮が来てもおかしくない程入院したが、今だにお歳暮も感謝状も届かない。

(S43政経)

「脱新人」

(株)日興証券 南 晃平



人間科学部二〇一二年卒、南晃平と申します。証券会社で営業をしております。今春から社会人二年目になりました。今はアベノミクスのお陰で毎日株価を見るのが楽しみです。

さて、二年目になり一年目の仕事るときはお客様扱いをされていたのだと感じています。お客様の所に訪問させていただいたときも、逆にお客様から相場や人生についてご指導賜り、勉強させていただいております。

新人だからと失敗を許されていたのも一年目まで。お客様のお役にたてるように日々勉強し、まず宮崎で一番の営業マンを目標に頑張りたい。

(H24人間科学)

「化天のうちに比ぶれば」

県漁村振興課 田中 力



この年のことを「知命」とも言いますが、今も昔も大きな節目であるような気がします。

若い頃からお酒は控えめにしていたのですが、ガンマGTPが下がらず原因がわかりませんでした。しかし、この年になり、ふと見た健康番組で、まさか甘い物好きのせいでは?と思い当たったのです。子供とお菓子を奪い合うように食べていたからです。そこで、甘いもの控えたところ、この半年で体重が5kg減りましたので、脂肪肝はかなり改善できたのではと思います。

この年を境に体内のエネルギー生成系が切り替わり肉体的な節目でもあるようなので、残りの人生健康であろうと改めて意を強くしたところです。

(S61法学)

「学生時代」

県教育庁スポーツ振興課 土井 智喜

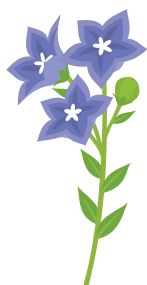
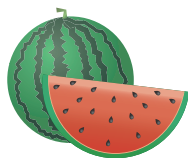


大学を卒業し三十年あまり経ちました。同級生には、俳優の川野太郎、サッカーU二十三前日本代表監督の関塚隆、私はラグビー部所属でしたが、FWコーチに現Jリーグ大東和美チェアマンがおられました。

ラグビー部の練習は大変でしたが、長野県菅平高原(夏合宿時)に、女優の吉永小百合さんが激励にきてくださった事を今でも覚えています。また、大西鉄之介先生からスポーツの哲学を学んだことが、今の仕事に大変役立っています。

昨年、宮崎で三回目の早慶戦を開催させていただきました。皆様には大変お世話になりました。ありがとうございます。ラグビー部の前途は多難ですが、今後とも支援のほどよろしくお願いいたします。

(S59教育)





ビアガーデンのご案内

日 程：8月17日（土）19：00～
場 所：宮崎観光ホテル 2F
会 費：5,000 円
連絡先：070-5699-6181（Mr.hide）
切 日：2013年8月2日（金）

平成 25 年度 早稲田大学校友会宮崎県支部総会

と き	平成 25 年 7 月 28 日（日）	
ないよう	支部役員会	12：30～13：00
	商議員懇談会	13：00～14：00
	【在校生父母会・同懇談会】	12：30～15：20
	支 部 総 会	14：30～15：20
	講 演	15：30～17：30

◆早稲田大学総長 鎌田 薫
「早稲田大学の更なる発展を目指して」

◆早稲田大学教授 濱田 政則
「東日本大震災の教訓と今後の地震・津波対策」

交 流 会 17：40～19：30
会 費 校 友 6,000 円 一 般 5,000 円

と ころ 宮崎観光ホテル
宮崎市松山 1-1-1 ☎ 0985-27-1212
問い合わせ先：宮崎市地区稲田会幹事長
蕪美知保 ☎ 090-8406-5327

Coffee Break

それは突然やってくる。

何度も挑戦し、そのたびに何の反応もなく半ば諦めていたある日、竿の穂先が海面へ向かっていきなりお辞儀をした。この瞬間のためだけに釣り場に通ってきた。趣味のない人から見れば、貴重な時間を浪費してきたのである。

石鯛は沈み瀬に逃れようとする。竿がのされそうになるが、我慢して取り込みやすい瀬際に寄せた。黒を帯びた口まわりが光っている。

磯釣りでは、撒き餌をしながら、メジナやチヌなどをおびきよせて細仕掛けで釣る上物釣りが主流である。石鯛釣りをする人は、一徹な人が多いように思う。この釣りは釣果の確率が低い。一日の大半はエサを投げ、ひたすらハリにかかるのを待つというスタイルである。食うか食わないかは相手次第。運まかせというが、本当は潮と水温次第である。

金線のワイヤー仕掛けのハリには、ウニ、ジंगाサ、磯カニなどの甲殻類をつける。石鯛の歯は、いわばペンチやニッパのように頑丈で鋭い。硬いものでもバリバリ割って食べる。そのために七本撚りのワイヤーを使うのである。

最初の当りは小さく、その後穂先を一、二度押え、エサをくわえて反転するとき、一気に穂先が海面に下がる。それからのやり取りは、綱引きと表現する人がいるくらい強烈である。



十回出かけてもボウズの日も多い。確率は一割を切る。それでも出かけるのは、言い表せない感動、驚愕、ワクワク感のすべてがあるからである。

若い頃は、県南の日南や串間の離れ瀬、鹿児島島の離島に通ったものであるが、このごろは、健康維持のために、足腰の劣化防止のために、自宅から四十分程の釣り場へ行く。あと幾度通えるか先は見えているが……。

日常では強烈な感動はめったに得られない。これまですでに感動の寿命を使い果たしたようにさえ感じる。しかし、石鯛は、この磯の王者は、非日常の感激を与えてくれる。

手の平サイズの小物でもないではないかという人もいる。長崎五島の名人は、グレ百匹より石鯛一匹と名言はかかれている。それが釣りである。 (F)